

10月1日 宿題

小学校3年生の夏。その年は家族で母の故郷である広島に帰省した。初めて会うおじやおば、いとこたちときれいな海で泳いだり、魚釣りをしたりして遊んだ。充実した、本当に楽しい夏休みだった。お世話になったおじの家では、私たちの為に新しい箸とお茶碗が用意されていた。私には「ジャングル大帝」の「レオ」が描かれたプラスチックの箸が与えられた。それが何よりうれしかった。兄弟の多い我が家ではそんな贅沢は許されなかったから。

夏休みの宿題として作文が課されていた私は、家に帰ってから楽しかった思い出を、一生懸命原稿用紙につづった。特に「レオ」の箸がうれしかったことを丁寧に書いた。ところである。新学期の宿題提出の日に、その作文を忘れてきてしまった。その日は各々の作文を発表する日でもあったのに。自分の順になって、恐る恐る担任の先生に伝えると、先生はこう返した。「じゃあ愛川君。思い出しながらでいいから発表してください」。

人前で話をするのが大の苦手な私、本読みで当てられても小声でぼそぼそしか言えない私に、そのハードルはかなり高かった。震えながら、脂汗をかきながら覚えていることを訥々と話した。当然、時系列なんて関係ない、頭に浮かぶままを。一通り話し終わって、「レオ」の箸の話をしていて気づき、最後に付け足した。その間、周りのみんなも先生も沈黙のまま私を見守っていた。発表が終わり立ちすくんでいる私に、先生が、「よく思い出してお話しできました。みんな、愛川君に拍手を」。初めてだった。人前で認められ、拍手までもらえたのは。ゾクゾクした。

水色のプラスチックに金で縁取られた「レオ」の姿。50年以上経った今でも鮮明に覚えている。

